

十六夜家の野望(仮)

十六夜 桜花

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

平成から令和に移り変わった時、一人の老人が死亡した。

明治維新の時に成功者になった日本最大財閥である十六夜財閥の当主十六夜 霧斎 という老人が死亡した。

世界の管理者により、ステータスがあるパラレルワールド日本の戦国時代へと向かい十六夜家のご先祖様が居たとされていた讃岐国十六夜家の嫡子としてこの世に生を受けたが待っていたものは…

目指すは天下かはたまた商業的天下か…

目次

第一話 転生

1

第一話 転生

平成から令和に移り変わった時、一人の老人が死亡した。十六夜財閥の当主十六夜 霧斎という老人が死亡した。

「十六夜さん、起きてください。十六夜さん？起きてー！」

「は、はい。起きます…。」

「やっと起きてくれましたか…？つてまた寝てる！起きてください！」

それから同じ事を繰り返したが、五回目で綺麗に目覚めたのであった。

「ん、んん。それでは、十六夜 霧斎さん。私は、管理者です。貴方は、老衰により死亡しました。貴方には、あらゆる選択肢があります。転生しかりです。」

咳払いをすると、管理者と名乗った者に老衰により死亡したことを伝えられ、死亡する前は、病院に入院していたことを思い出したが、管理者から提示された選択肢が気になった。

「転生しかりというと、異世界転生や逆転転生が出来ることですか？それと、チートの特典とかもありますか？」

管理者は、手元にある本を捲ると軽くうなずいた。

「あります。いまから転生先を異世界転生、逆転転生、パラレルワールドの一覧を出すので選んでください。」

管理者がPCでキーボードとマウスを打つと近くにあつた印刷機から大量に紙が出てきた。

「左から異世界転生がこちらの東、逆転転生がこちらの東、パラレルワールドの東になります。」

三つの紙をめくり、パラレルワールド以外はろくな転生先がなかった為、パラレルワールドの日本の戦国真つ只中の室町時代を選んだ。

「激動の時代ですねえ。では、名前はこのままでいきます?」

「はい。」

「それでは、出身などを決めてください。」

名前：十六夜 霧斎

性別：男性

出身地：四国地方

出自：帝の落胤らしくいん。現帝の父が四国地方に即位の御行に來たさい、讃岐の絶世美女に産ませた私生児。

十六夜家の長男。

「某立志伝のような能力値とかは…設定では無いですが、変わりに才（称号）を決める権利と初心者ギフトがありますね。初心者ギフトは転生して数えて十五歳の成人の時に、贈呈されます。才は財閥で善行を行っているので、五つ決めれます。あと、世界がアツプデートされるかも知れないので、もしかしたら某立志伝のような能力ステータスが貴方に見えるかも知れませんが、よろしくお願いいたします。」

先ほど決めたステータス表がまた表示され、そこには、先ほどの名前とかの一番下に新たな項目が追加されていた。

名前：十六夜 霧斎

性別：男性

出身地：四国地方

出自：帝の落胤らしくいん。現帝の父が四国地方に即位の御行に来たさい、讃岐の絶世美女に産ませた私生児。

十六夜家の長男。

才（称号）：軍神、天下人の卵（進化可）、政治家、武の才（進化可）、韋駄天

固定能力：ステータス表示

獲得可能性のある称号：百万一心、神速、兵法家、戦闘名人、慧眼、謀神

「これでお願ひします。」

「わかりました。」

PCのキーボードをカタカタと打つ管理者が、打ち込みが終わるとこれからの希望を聞いてきた。

「何か希望はありますか？もしかしたらギフトプレゼントに入るかも知れませんよお？」

「希望はデータ編集が欲しいです。」

「なるほど。上に伝えておきます。では、そろそろお時間です。目を瞑り（めをつぶ）ラックスしてください。」

それからいくばかの時が経っただろうか、次に目が覚めると真つ暗な空間だった。

「知らない天井だ……。しかし、目線が下がったような気がするな。」

体を起こし、辺りをみわましてみる。

掛け軸と刀と短刀が飾つてあるところがあつた。

おもむろに短刀の方をとり、抜いてみると刀身がキラリと光つて出てきた。

そして、刀身を畳の上に重さで支えきれなかつた短刀が突き刺さり、刀身に映つた自分をみて、先ほどのまでの記憶が戻つてきた。

「え……本物……そういや転生したんだつた。子供に転生するとは思わなかつたな。そうか、夢じゃなかつたんだ。寝るか……」

なんとなく自分が横になっていた布団もどきの所でまた寝た。